# 地理歴史・公民科

| 教 科 名 | 公民科 | 科 目 名 | 現代社会 |
|---|---|---|---|
| 科目の目標 | 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて，広い視野に立って，現代の社会と人間についての理解を深めさせ，現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 | | |
| 履修学年 | 1年 | 類型 | |
| 単 位 数 | 2単位 | 履 修 形 態 | 必修 |
| 教 科 書 | 高等学校新現代社会新訂版（清水書院） | 副 教 材 等 | ライブ！現代社会資料2018(帝国書院)、完全MASTERセンター試験現社問題集 |

## ①学習の目標

（1）現代社会に対する認識を広げ、自ら課題を設定してその解決方法等を追求しようとする姿勢を養うために、グローバル化・少子高齢化・科学技術の発展を大きな枠組みとして、人間と社会の関わりについて理解し、現代から未来を生きるものとして重要な幸福・正義・公正の在り方について考える力を養う。

（2）現代社会の諸課題について主体的に考え、公正に判断できる力を養う。

## ②学習内容と授業の進め方

（1）グローバル化の進展では、国内社会と国際社会の構造の違いを踏まえて、政治や法・経済の本質的なあり方を重視して、国際社会における課題について主体的に考察する態度を培います。
（2）人口減少社会の進展では、少子高齢化と密接な関係がある社会保障や日本の財政、地方自治について踏まえ、少子高齢社会における課題について主体的に考察する態度を培います。
（3）科学技術の発展では、急速に発達する科学技術に対し、人間のあり方を踏まえて、社会と人間がどのように関わるべきかについて主体的に考察する態度を培います。
（4）目標を達成するために、講義を主として進めますが、グループ学習や授業での気づきを重視し、多様な言語活動によって表現する活動を行います。また、外部人材を登用し、社会に対する認識を広げます。

## ③学習に当たっての留意点

中学校までの社会の学習を踏まえて、グローバル・少子高齢化・科学技術の発展という柱を基に、社会の中で生きることの意味を考察することで現代社会に対する認識を広げていきます。中学校までの学習を基礎としていることに着目し連続性・連動性を意識して下さい。

現代社会は、公民という教科の1つの科目として位置づけられていますが、高校地歴・公民科(社会科)の導入科目にあたり、2年次以降に学習する地歴(世界史、日本史、地理)及び公民(倫理、政治・経済)の学習や社会科学の方法を学ぶための基礎科目としての性格を持っています。

上記のような性格があることから、事項の暗記にとどまらず自己の興味・関心の幅を広げてください。1年間の学習を通して、社会の様々な事象に興味・関心を持ち、自ら考え・調べる態度を養い、自己の生き方を自ら判断していく能力を身につけてください。

## ④評価の観点

| | |
|---|---|
| （1）関心・意欲・態度【関】 | 自ら進んで現代社会に対する関心を高め、意欲的に課題を追求しようとする姿勢をもち、主体的に参加しようとする態度を持っているか。 |
| （2）思考・判断・表現【思】 | 現代社会の諸問題について、社会の変化やさまざまな立場をふまえて考察し、自らの意見を自らの言葉で適切に表現することができるか。 |
| （3）技能【技】 | さまざまな資料を適切に収集し、それを効果的に活用し、考察の過程等を適切な方法で表現することができるか。 |
| （4）知識・理解【知】 | 現代社会の諸問題を読み解く上で必要な基本的な知識を身につけ、理解できているか。 |

## ⑤評価の方法

定期考査・思考のフレームワーク・学びの発見ノートの提出をふまえて、総合的に評価判定を行います。

## ⑥授業計画

| 月 | 単元名 | 具体的な学習内容 | 評価の方法など（観点項目を記入） |
|---|---|---|---|
| 4 | | 教科オリエンテーション（現代社会の学び方） | ・グローバル化による社会的課題を認識し、国際社会の成立における原則を踏まえ、国際政治の現状や国際経済の現状について理解している。<br>【知識・理解】<br>・グローバル社会における社会的課題の解決方法について、学習した知識を基にして考察することができる。<br>【思考・判断】<br>・グローバル社会における社会的課題の認識のために、効果的に資料を活用し、客観的データを基に課題の提示を行うことができる。<br>【資料活用の技能・表現】<br>・グローバル社会における社会的課題を学習した内容から、どのように解決すべきか、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。【関心・意欲・態度】 |
| | | **※グローバル時代の未来を考える** | |
| 5 | 第2編　第5章国際政治とそのしくみ | 1　国際社会の成立と国際法 | |
| 6 | | 2　国際連合の役割としくみ | |
| 7 | | 3　国際社会における人権保障 | |
| 8 | 第3編　第3章国際政治と日本 | 1　国際取引と国際収支 | |
| 9 | | 2　自由貿易とその進展 | |
| | 第2編　第6章現代の国際社会と日本 | 1　第二次世界大戦後の国際政治 | |
| | | 2　現代世界の政治動向 | |
| | | 3　現代の紛争 | |
| | | 4　軍縮と大量破壊兵器の廃絶 | |
| | | 5　日本外交と国際平和の実現 | |
| | 第3編　第3章国際政治と日本 | 3　国際経済の現状と日本 | |
| | | 4　世界の貧困と国際協力 | |
| | | **前期期末考査** | |
| | | **※人口減少時代の未来を考える** | ・少子高齢化による社会的課題を認識し、社会保障の在り方や日本の財政・地方自治の在り方との関連を踏まえ、現状について理解している。<br>【知識・理解】<br>・少子高齢時代における社会的課題の解決方法について、学習した知識を基にして考察することができる。<br>【思考・判断】<br>・少子高齢時代における社会的課題の認識のために、効果的に資料を活用し、客観的データを基に課題の提示を行うことができる。<br>【資料活用の技能・表現】<br>・少子高齢時代における社会的課題を学習した内容から、どのように解決すべきか、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。【関心・意欲・態度】 |
| 10 | 序章　第5章現代社会の今日的課題 | 1　人口減少社会と高齢化 | |
| | | 2　人口減少社会におけるまちづくり | |
| 11 | 第3編　第2章経済活動のあり方 | 6　社会保障の意義・仕組みとその課題 | |
| | 第3編　第1章経済社会とその仕組み | 1　市場と経済主体 | |
| | | 4　財政とその働き | |
| | 第2編　第4章現代日本の政治機構と政治参加 | 5　地方自治と住民生活 | |
| | | **後期中間考査** | |
| 11 | | **※科学技術発展の時代の未来を考える** | ・科学技術の発達による社会変動を踏まえ、現代社会における社会参加の意義を認識し、現状について理解している。【知識・理解】<br>・科学技術の発達が、社会に対して人間が引き起こした社会的課題の解決方法について、学習した知識を基にして考察することができる。<br>【思考・判断】<br>・科学技術の発達の時代における、社会と人間との関わりの中で社会的課題の認識のために、効果的に資料を活用し、客観的データを基に課題の提示を行うことができる。<br>【資料活用の技能・表現】<br>・科学技術発達の時代の中で、社会的課題を学習した内容から、どのように解決すべきか、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。【関心・意欲・態度】 |
| 12 | 第1編　第3章近・現代の社会と倫理 | 1　近代思想の形成 | |
| 1 | | | |
| 2 | 序章　第3章科学技術と生命倫理 | 1　テクノロジーの進歩と生命倫理 | |
| | | 2　決定権は誰のものか | |
| | | 3　私たちがめざす未来とは | |
| | 序章　第4章高度情報化社会と現代の課題 | 1　高度情報化社会と経済 | |
| | | 2　高度情報化社会の課題 | |
| | 第1編　第3章近・現代の社会と倫理 | 3　現代の倫理的課題 | |
| | 第1編　第1章青年のあり方と現代 | 1　青年期と私たち | |
| | | 2　自分らしさとは何だろうか | |
| | | 3　現代社会と私たち | |
| | 第1編　第2章現代に生きる倫理 | 1　学びの源流－ギリシャ哲学－ | |
| | | **後期期末考査** | |
| 3 | 第2編　第4章現代日本の政治機構と政治参加 | **※主権者として** | |
| | | 6　政党・選挙と政治参加 | |
| | | 3　裁判所の役割 | |
| | | 4　裁判と裁判員制度 | |